文学基礎レポート

B16079　前田剛志

現代の掛詞

掛詞とは和歌などにおける修辞技法のひとつである。１つの語に２つの意味が込められたものを指す。そんな和歌などに使われていた掛詞が、現代ではどのように使われているのだろうか。１つは現代の歌の歌詞などに使われることがある。例えば、GReeeeNの「キセキ」㊟1などがあげられる。この歌では、「キセキ」という言葉に奇跡と軌跡という２つの意味が込められている。２つめは英語と日本語での掛詞である。「More One Night」㊟2という歌では、「もう終わんない」という歌詞に「more one night」を掛けている。

この歌は旅がテーマの作品の楽曲なのだが、それを踏まえて考察すると「旅をもう終わろう」という提案と「もう一晩だけ」という継続の意思との、相反する二つの意味を表している。さらに「旅はもう終わらない」という永遠も表している。

このように歌の中にある掛詞などを見つけるとその歌のまた違った顔を見ることができるかもしれない。また英語と日本語の掛詞など文学のグローバル化が進んでいるなと感じた。

参考文献

㊟1.作詞　作曲　GReeeeN「キセキ」より引用

㊟2.作詞emon(Tes.) 作曲emon(Tes.)ヒゲドライバー 唄チト（水瀬いのり）/ユーリ（久保ユリカ）「More One Night」より引用